

知を力に文化の社会的役割を高める塾

塾の目的と名称（案）

みんなの木代表の岡本伸子さんの粘り強い依頼に押されて、この塾をお手伝いすることになりました。

しかも、内容、回数、参加者、受講費などは岡本さんの頑固なまでの考えで決める、ということ cụ体化が始まりました。

わたしが唯一こだわったのは、この塾の名称です。

この塾でわたしがみなさんとともに学びたいことは、人間らしい暮らしと社会のあり方にとって欠かすことのできない文化芸術芸能（以下、単に文化と省略）が、どうすればもっと社会に役立つのか、また、社会にとって不可欠だという文化についての認識が、どうすれば広く社会の常識になるのかという、原論です。

この塾の目的は、それぞれが経験してきたことでもっている「経験知」を、哲学的な考えを取り入れながら、もっと深く根っここの「原論」にまで掘り下げ、「知を力」として、文化団体や文化活動の発展方向を見定め、地域社会におけるその量と質を高め、それをとおして、それぞれの生きがい、これからの人生をいっそう高度なものにするということにあります。

哲学的とか、原論などという、ただ固い理屈だけの話のように受け取られるかもしれませんが、内容は、岡本さんの当初からの強い要望で、それぞれの現実的な必要に即したものを考えています。

○国や自治体の文化行政の中で示される法律や条例、助成金・補助金の募集案内などを、文化団体や文化活動の現場でどう理解するか、どう読み込むか。

○読み込んだことをどう活用していくか。

○文化団体のあり方や活動を、地域社会にどう伝えていくか。

○そのために必要な表現力・説得力をどう身につけるか。

岡本さんから繰り返しいわれてきたことは、こうした実践的に意味のある「知」の根っここの学習でした。

以上のような経緯と目的、内容からすると、個人の名前をつけることはふさわしくありませんし、この塾が 10 年後 20 年後の中部地方（ということは、さらに日本各地）に及ぼす影響を考えると、その根っこに「知」があり続けるところこそ重要であると考えます。

そこで、塾の名称に、深い意味を込めて、＜知の根＞という言葉提案致します。

【蛇足ですが、哲学 Philosophy は、「知を愛する」という言葉です。Phil は愛、sophia は英知というラテン語からきています。愛知県とはよい名前ではありませんか。もっとも、奈良時代の鮎市という地名が、尾張国愛智郡となり、やがて愛知と書かれるようになった、ということで、哲学を意識したものではなかったようすが。】